

平成20年度通常総会



5月18日、平成20年度NPO法人alaクルーズの通常総会が洋室ワークショップルームで開催されました。午前11時に中村理事の司会で始まり、春見理事の開会の辞の後、定数の確認が行なわれ、会員数57名のうち委任状を含め48名が出席しました。また財団からは来賓として衛館長、箆橋事務局長、山口創造事業課長が出席されました。まず、澤野理事長が挨拶をされ「マンネリ化や停滞化など懸念される中、会員の意識が薄らいているのではないかと、ボランティアと運営側の熱が少し、冷めてきたのではないかなどと思います。新しい発想を取り入れて、長続きする活動をしていきたい。」と述べられました。その後、議長に支援グループの大坪さんが指名され、議事に入りました。平成19年度事業報告が大石前副理事長から、会計報告が奥田理事より報告され、全会一致で承認されました。続いて平成20年度の組織役員案、事業計画案と事業予算案が提案され、同様に全会一致で承認可決されました。最後に来賓の衛館長よりご挨拶をいただき、「アール自体がブランド力をもたなくてはいけない。今年度中には可見市が文化都市になるようにと想っています。クルーズとの関係をさらに充実していきたい。」と述べられました。総会は11時30分に終了し、引き続き交流会が開催されました。箆橋事務局長の乾杯のあと食事をしながらの懇談となりました。



新役員の抱負



理事長

自身少々マンネリ化に陥り、次期はどなたか新しい理事長に交代できたらとの思いでしたが、5回目の指名を受け改めて責任を強く感じています。財団の運営方針など舵取りされようとする今、もう一度原点に立ち返り、ボランティアの本質について問い質す時期にあると考えます。これまでを振り返るとき、これで良かったのか？これで良いのか？など自問自答する中、まだまだ模索が続くと思いますが、組織としての「形」と、個々の「思い」を少しでも近づけるため、柔軟に対応していきたいと考えます。

澤野親司氏



創造・企画理事

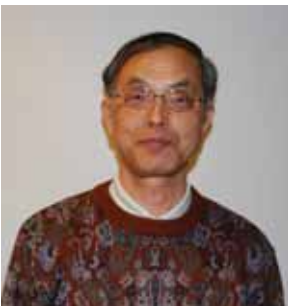


引き続き理事を務めることになりました。ここ数年は、会員の会議、事業等への参加率が低下傾向にあり理事として各活動の推進に危惧を抱いています。今年度は、みなさんとの対話を重視し、何が問題なのか、どんなことをしたいのか等を明確にして今後の活動に活かして行きたいと考えています。クルーズの活動の原点は、まずは個々の会員が楽しむこと！みんなが楽しめる事業を一緒に企画していきたいと思います

中村幸雄氏

人と人の繋がり大切さをクルーズの活動を通して再確認したいと思います。会員同士のコミュニケーションを高めて、チームワークの活動力で、やりがいのある事業展開していきましょう。

山内直子氏



この度、創造企画Gの理事を拝命致しました。alaクルーズに入会して、早や6年の月日が過ぎました。以前から、舞台芸術に興味があり、舞台関連の研修会に参加し、はじめてその魅力に取り付かれました。2003年からクルーズの活動に参加し、学んだことを生かしたいと考えます。最近では活動に参加するメンバーも少なくなり、ボランティア活動継続の難しさを、ひしひしと感じます。活動を活性化することが理事の使命と思いますが、その重責に身が引き締まる思いです。与えられた2年間で仲間の皆さんと共に、楽しく生きがいのある活動ができるように、体力の続く限り精進したいと思います。

篠田堯之氏

支援理事

みんなで、仲良く、楽しく、活動が出来るようにしていきたいと思います。フロントスタッフだけでなく、他のプロジェクトにも参加して、クルーズ全体を見つめていけるようにしたい。

寺松美津利氏





クルーズと共に年を重ね、あっという間の月日を過ぎてきました。その間、多くの人たちに助けられ、教えられて来ましたが、とても良い年月を頂いたと思っております。これからも、クルーズの皆さんや市民の皆さんと楽しんで活動したいと思います。微力ながら、理事として努めさせていただきます。 久米房美氏

就任以来早くも2ヶ月が過ぎようとしています。支援グループ新理事3名。かつてこんなに話し合った事があっただろうか。今後、任期2年の間も続く事だろうなあと思います。ala建設中の劇場フロントスタッフ研修に始まり、月1回の支援活動を心がけて6年。今までとは違う何か、もう既に始まっている。と感じている今日この頃です。「明るく、楽しく、そして喜びが得られ、長続きする活動を目指そう！」に向かって、支援グループの皆さんの意向を確かめながら、『無理せず、出来る事を精一杯。』を心がけて頑張ります。 春見純子氏



広報理事



今までできなかった事を、広報グループから始めよう！！ そんな気持ちで就任いたしました。伝えるだけの広報から創る広報へ。何とかならないか、alaクルーズの可能性を発揮できるような、「やってよかった」「またやりたい」みんながそう思えるようなこと。発足当時はalaクルーズの全員がそう思ったはず。忘れていた何かを掘り起こして、活動の場を広げて行きたいと考えます。「無いようで有る」「見えないようで見える」グループの垣根を取り払って、alaクルーズが一丸となって行えるイベントそれを考えたいと思います。 奥村政司氏

引き続き会計を担当します、奥田です。NPO法人は毎年決算ごとに事業報告と会計報告書を県に提出しなければなりません。それだけに責任の重い仕事と思っています。みなさまのご協力を得て、進めていきたいと思っております。限られた予算ではありますが、有効に活用し、活発に事業をすすめてまいりましょう！ 奥田慎太郎氏



監事 奥村 峰隆氏

監事 鬼頭富士雄氏

役員の皆さん2年間よろしく
お願いいたします

アーツボランティアフォーラム2008

日時 平成20年8月30日(土)

会場 可見市文化創造センター ワークショップルーム(洋室)映像シアター レセプションホール

昨年開催いたしました「アーツボランティアフォーラム2007」は、多数ご参加いただき無事終了することができました。そこで、今年度も開催に向け準備を進めております。昨年は第1回ということで、参加団体の紹介が中心でしたが、今回のフォーラムは本来の開催目的でもある、それぞれの活動分野での具体的なディスカッションで交流の場にしたいと考えております。詳細については現在検討中です。

突撃稽古場レポート

～文学座『風をつめたき櫻かな』と東京演劇集団風『Touch～孤独から愛へ』編～

財団の平成20年度事業の一環として、アールで公演する演劇の稽古風景をクルーズのメンバーが取材し、事前のPRやお客様に報告をもらう企画がスタートしました。第1回目は、4月30日、5月1日の両日、東京の文学座の「風をつめたき櫻かな」の稽古場を視察することになり、創造企画Gの3名が参加しました。30日、財団の職員と一緒に文学座のアトリエを訪問し、実際に稽古している場面や俳優加藤武さんへのインタビューを行いました。翌日中野ZEROで公演している東京演劇集団「風」の「Touch～孤独から愛へ」を観劇、取材しました。参加した3名は5月6日に公演された「加藤武の講談『宮本武蔵』と西川信廣との爆笑対談」のオープニングで視察の様子をお客さまに報告しました。「風をつめたき櫻かな」は6月11日19:00、12日14:00の2回、小劇場で公演されます。皆さんもぜひご覧下さい。



稽古場を観れたことに感激！そして、まだ稽古段階であるにもかかわらず、役者さんのセリフが一つ一つ生きてセリフとして自然と体の中に入ってくるその演技力の高さに感動です！この作品が完成された姿を想像するだけでソクソクしてきます！
山内直子

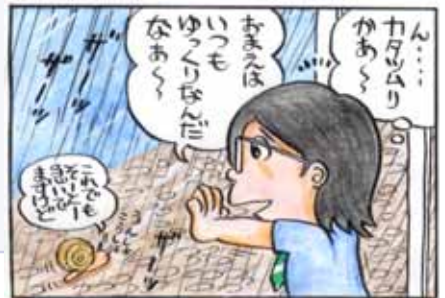


日常の他愛のない会話とその洗練されたセリフの中に、役者同士が自分達を表現してゆく手法は、思わず引き込まれてゆきます。劇中で使用される俳句は久保田万太郎氏自身の作品でもあるそうで、そのあたりも、楽しめそうです。自分達の生活の中にも、今のような殺伐とした世間ばかりではないものがあるということ、充分に感じさせる演劇です。 篠田堯之

文学座アトリエという歴史ある空間、その現場に足を踏み入れ、緊張感漂う雰囲気には圧倒された！まだ稽古は中盤、既に仮の舞台装置が立てられていることに驚き！役者やスタッフの作品に対する愛情が稽古場内に満ちている。このように数々の名作がこの場所から生み出されて来たんだなーと感慨深い。今回の公演も面白くないはずはないそう確信した。
中村幸雄



進め！ (20) ほんだひらし alaクルーズ



編集後記

この紙面がお手元に届く頃には、もう梅雨間近になっていることでしょう。うっとおしい日が毎日続き、夏空が待ち遠しくなります。一方で農家の方にとっては大切な雨でもあります。そう思い直すと、雨もまたありがたい自然の恵みなのでしょう。水災害など無く、適度に降って欲しいものです。先日の総会で平成20年度の活動計画が承認されました。内容は継続事業が中心でしたが、その他に会員提案事業が盛り込まれていました。皆さんのアイデアを活かし、何かをやりたい、始めたいという予算です。ぜひ新鮮な企画をご提案下さい。みんなで取り上げて、実現化へ頑張りましょう。皆さんのアイデアをお待ちしています。(o)

ala クルーズ事務局 TEL/FAX : 0574-61-3414
<http://www.kpac.or.jp/alacrews/>
Mail : ala-crews@kpac.or.jp